

2023年4月5日

## 研究休暇報告書

南山大学長

ロバート・キサラ殿

所 属	外国語学部アジア学科
職氏名	教授 中 裕史

受入研究機関等：自宅および研究室

期間：2022年4月1日～2023年3月31日（1年間）

目的：「中国現代文学における地域性あるいは地域的特色についての研究－四川作家の語りの特徴に着目して」の公刊に向けて準備を進めるため

標記研究休暇期間における研究活動および教育活動の状況について報告いたします。

- 1 研究休暇の目的は、これまでの研究活動において時間的あるいは資料面での制約のために、論文で取り上げることがかなわなかった作家の作品や、研究対象とした作家の作品で分析を試みるに至らなかったものを改めて精読することによって、中華民国期において作家の層が他に地域に比べて非常に厚く、現代文学を代表する作家が何人も輩出している地域である四川の主要な作家および作品に対する研究の対象をさらに拡げて、可能な限り多くの四川作家の特徴をとらえた上で、総体としての四川作家の現代文学における位置づけをより明らかにすることであった。
- 2 研究休暇の前半は、李劫人の歴史長篇小説『大波』の精読にあてた。『大波』は中華民国期の1937年に上中下の3巻本として刊行され、さらに内容を大きく改編した新版が中華人民共和国の1958年の第一部から作者の死によって中断した1962年の第四部まで出版されている。2011年に出版された『李劫人全集』では、旧版と新版を合わせて5冊を数える大部の小説であり、これまでじっくりと向き合うことがかなわなかったが、研究休暇を得たことによって旧版と新版のいずれをも通読することができた。
- 3 『大波』の精読を果たせたことで、李劫人による歴史の叙述の方法に関して幾つの特徴を発見して、新たな知見を得ることができたので、研究休暇の後半ではそれらを論文の形にまとめることに力を注いだ。その一つである、作中人物のうちの知識人階層の辛亥革命

命への向き合い方については、「辛亥革命期の知識人像—李劫人『大波』における知識人の描写」（『アカデミア』文学・語学編第 113 号、2023 年 1 月）において詳細に論じた。また、中国現代文学における歴史長編小説としての『大波』の特徴がいかなる点に見出せるかということについては、「現代文学における歴史長篇小説の濫觴—李劫人『大波』攷」と題した論文にまとめてあり、23 年度に査読を経た上で学術誌に公刊する予定である。

- 4 研究休暇期間に上記 2 編の論文を仕上げる事ができたので、科研費基盤研究 (C)「文学を通じて見る中華民国期における軍隊の存在感と影響力についての研究」(2018～2020 年度)を含むこれまでの研究成果と合わせると、四川作家研究という地域性の観点から中国現代文学の新たな一面をとらえる試みをまとめた形での研究成果として公刊する計画は、その完成に向けて大きく進捗したものと考えている。
- 5 研究休暇期間中には、アジア学科科目として「演習 I」から「演習 VI」までと、「アジア地域演習」ならびに「卒業論文演習」を合わせて、演習 8 科目を担当した。また、国際地域文化研究科博士前期課程科目として「研究指導 I」から「研究指導 III」までの研究指導 3 科目と、「論文作成法 I (アジア・日本)」を担当して、大学院生の修士論文のテーマの具体化に関して指導を行った。

以上